

第17回諏訪東京理科大学公立化等検討協議会 会議録（概要）

日時：平成29年9月22日（金）
午後4時～午後4時50分
場所：諏訪市役所 5階 大会議室

【出席者】

岡谷市：今井市長、岡本企画課長
諏訪市：金子市長、前田企画政策課長
下諏訪町：青木町長、伊藤総務課長
富士見町：名取町長、伊藤総務課長
原村：五味村長、宮坂総務課長
長野県：青木私学・高等教育課長
山川諏訪地域振興局企画振興課課長補佐
茅野市：柳平市長、樋口副市長、柿澤企画部長、
加賀美大学準備室長、内山室長補佐兼係長、牛山係長、金井主事
大学：唐澤理事長予定者、河村学長予定者
(学校法人東京理科大学) 森口理事長特別補佐
(諏訪東京理科大学) 牛山次長
広域連合事務局：松崎事務局長、林企画総務課長

【公開・非公開の別】

公開

【会議内容】

1 開会

2 会長あいさつ 茅野市長

3 報告事項

(1) 第16回諏訪東京理科大学公立化等検討協議会の会議結果について

《事務局（茅野市）から報告「資料1」》

(2) 公立大学法人評価委員会の設置について

《事務局（茅野市）から報告「資料2」》

(3) 公立大学法人設立認可申請について

《事務局（茅野市）から報告》

（茅野市企画部大学準備室長）

公立大学法人の設立認可申請については、昨日長野県へ提出させていただいたので報告させていただく。なお、設置者の変更認可申請については、学校法人東京理科大学から文部科学省へ7月下旬に既に提出している。これらに対する認可については、11月頃になるのではないかとということである。

（長野県県民文化部私学・高等教育課長）

確かに申請書を受け取った。

(4) 理事長予定者の活動（関係機関への訪問）について

《公立大学法人公立諏訪東京理科大学理事長予定者から報告「資料3」》

《補足説明》

（公立大学法人公立諏訪東京理科大学理事長予定者）

関係機関への訪問実績の報告ということであるが、その中でも諏訪東京理科大学から就職実績のある地元企業をいくつか訪問させていただいた。本学の目標としては、実力のある学生を輩出し、地元企業に貢献していくということが非常に大きな目標であるが、そういう意味で、卒業生が企業の中でどういう働き方をしているかを見ることができた。

ある企業に訪問し併設の工場を見学させていただいた際に、3名の卒業生が勤務していた。我々としては、経営ができるエンジニアを育てていくということであるので、幅広く様々な職種に就いて欲しいと思うところであるが、その3名はそれぞれ設計部門、生産管理部門、それから全体の資材の調達関係の部門で働いており、幅広くその企業の中で活躍する姿を見ることができ非常に嬉しく思った。それぞ

れの企業の中で学生が育っていき、会社の活動を通して地域へ貢献していくことが非常に重要であると思う。

質疑応答 理事長予定者の活動（関係機関への訪問）について

Q. 国会議員への訪問は行ったか。

A. 後藤代議士にお会いすることはできた。

(意見) これから総選挙になると思うが、チャンスがあれば訪問していただければ良いと思う。

4 協議事項

(1) 公立大学法人公立諏訪東京理科大学「中期目標」(案) について

《事務局（茅野市）から説明「資料4-1～4-4」》

質疑応答 公立大学法人公立諏訪東京理科大学「中期目標」(案) について

(意見) 大学には、大きく分けて「教育」「研究」「貢献」「国際」の4本の柱がある。前回の検討協議会で提示された中期目標(案)はそういう柱立てになっていたが、今回提示された中期目標(案)では、項目立てとして「研究」という柱が無くなっている。内容的には組み替えただけであり、大きく変わっているわけではないが、柱立てとして「研究」が表に出てきていない。公立大学設立準備委員会の中で、中期目標の3つの基本目標にあわせるべきだという意見があったということで、それを踏まえてこういう形にしたのかもしれないが、むしろ、基本目標に大きな4本柱の1つである「研究」を入れるべきであると思う。もちろん公立大学においては地域貢献も大事であるが、その前にしっかりとした研究を行っていないと地域貢献ができないと思う。「研究」について、基本目標に入れたうえで、何らかの形で見出しとして研究ということが出てこなければいけないと思う。前回の協議会では、「公立大学ということにこだわりすぎて、地域志向が強すぎるのではないかという印象を受ける。」という意見があったように、もちろん地域貢献も大事であるが、地域貢献の中に「研究」を入れてしまうというのは少し行き過ぎであるように思う。やはり、大学としてしっかり「研究」を行っていくということが大事であると思う。中身を新たに加えていくべきだ、ということよりも、組み換えだけの問題だと思うが、「研究」についてももしっかり世界に誇れる大学にしていくということを打ち出していくことが大事であると思う。

(回答) ワーキンググループ等もあるので、その中で「研究」について入れていくかどうか検討させていただきたいと思う。

Q. もう一度、大学の4本柱を確認させていただきたい。

A. 大きく分けると、まず「教育」と「研究」の大きな2本柱があり、3番目として「貢献」、それに加えて最近では「国際」の4本柱である。この部分について、公立大学といえども「地域貢献」の中に「研究」を含めてしまうのは整理としてあまり良くないと思う。

(意見) 組織に関して、6ページには「地域連携協力センター」がありその下に3つのセンターがあると記載されている。下部組織のようなものになると思うが、そこに示されていることを見ると、地域連携協力センターと3つのセンターが並列のように見えてしまうと思う。

(回答) ご指摘の様にわかりにくいと思っている。「地域連携協力センター」がワンストップの窓口として受け、それぞれ「産学連携センター」「生涯学習センター」「高大連携推進センター」に振り分けていく。さらに、それからもれるものについては、事務局で対応をしていくことになる。

(回答) 「産学連携センター」、「生涯学習センター」、「高大連携推進センター」を、全部あわせた総称が「地域連携協力センター」という形である。それと、研究開発を行っていくための「地域連携研究開発機構」がある。

(意見) 全体的に中期目標として理解しやすい表現に変わっているということの評価したいと思う。

委員から指摘のあった「研究」については、大学の基本的な事項になると思うので、記載していく方向が良いのではないかと考えた。

また、大学生は一般教養等の履修をしていくことになると思うが、その中で、最近の子どもたちの「健康」や「心の強さ・弱さ」といったことが社会全体の問題になっていると思うので、学生たちの健康を支えるような分野があると良いと思う。

(回答)「健康」や「心の強さ・弱さ」ということについては、重要なことであると思う。そういったことについては、前回の検討協議会の意見を踏まえ、中期目標の中の2の(1)のイの(ア)の教育内容の充実の中で、諏訪地域の歴史や文化を学ばせるということをしっかり書き込み、地域社会から学ぶことを通して学生たちが成長していったらいいと思っている。

Q.「運動」等についてはどうか。

A. スポーツ等についても科目があり、たくさんの学生が履修している。また、最近は課外活動もしっかり取り組んでいる。

(補足)「健康」などについては、中期目標の中の8ページの4の(4)のイの安全衛生管理に関する目標で読んでいくことになると思う。また、教職員については7ページの4の(4)のアの働きやすい環境の実現に関する目標で読んでいくことになると思う。

(意見)中期目標の中の「3 諏訪地域及び長野県への地域貢献に関する目標」について、「諏訪地域」という言葉を入れることによって、大学がどうしても小さく見えてしまうと思う。「公立諏訪東京理科大学」というしっかりとした名称があるので、そこでさらに「諏訪地域」と小さく限定して良いものかと感じる。

(回答)もちろん地域には貢献していただきたいが、表記として地域だけに小さくおさまらないで欲しいという思いだろうと思う。その部分の表現の仕方について、良いものを考えていくことは課題だと思ふ。

Q. 大学生活の中で、学習以外で、例えば、サークル活動や部活動といったものは心身を鍛えるうえで大変重要であると思う。そういったものの位置づけはどうなっているか。

A. 大学としても奨励しているところである。今年も様々なサークルができてきて、多少ではあるが良い提案をしてきたグループに資金援助を行い、活発に取り組んでもらうようにしている。

(意見)今回は中期目標ということであるが、これに沿って中期計画が作られるということで、その計画の方が実際には様々な方に理解してもらいやすいものになってくると思う。

目標については、大学の基本的な項目を打ち出していきそれに肉付けをしていくと、我々としても周りに説明をしやすと思う。しっかり固めてきていただいた目標であるが、そういった角度からまとめをしていただけるとありがたいと思う。

(意見)中期目標の見せ方について、わかりやすいまとめ方をしていただけるとありがたいと思う。

(会長：茅野市長)

本日いただいた意見、また、評価委員会からいただいた意見を含めて手直しを行い、これからの会議に提出していきたいと思う。また、10月25日の第18回諏訪東京理科大学公立化等検討協議会で正案にしていきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

(2) その他

5 その他

6 閉会